

第3回外部識者検討会（2024/9/26） 議事メモ

参加者

外部識者委員

久米 信行 氏 株式会社久米繊維工業取締役相談役（当会理事）

武井 涼子 氏 フェリス女子大教授、ヤンマー取締役（当会理事）

原 正隆 氏 元NHK伝統芸能部チーフディレクター

齋木 彩染 氏 彩佑流 宗家、高校校総合文化祭参加チーム指導者（六本木高校）

当会

沼崎 富 会長

徳田 寿風 副会長

早淵 鯉将 副会長

池内 賢二 専務理事

鈴木 吟亮 理事

（沼崎会長）

日本財団 笹川陽平会長との新春対談の際、来年度の武道館大会についてのお話もいただいた。少しでも盛会裏に負えられるよう、その期待応えていきたい。

（池内専務理事）

笹川会長より「日本全体で人口が減っているから、吟詠剣詩舞界でも会員が減るのは当たり前」の現象であるから、それをできない理由にしてはいけない」というお言葉をいただいた。

<主なトピック>

- ・第1・2回の振り返り
- ・武道館大会に向けて具体的な方向性と整理
- ・吟剣詩舞の真髄と伝統の重要性
- ・若者への吟剣詩舞の普及と継承
- ・武道館大会の企画と準備
- ・外国人や海外への吟剣詩舞の発信
- ・後継者育成と新しいメディアの活用

<問題点>

Issue: 若者の関心が低下している

Solution: 新しいメディアを活用した発信、カラオケ動画の投稿、アニメ・ゲームとのコラボなどで若者に訴求する

Issue: 後継者不足

Solution: オンラインレッスンの導入、後継者向けのワークショップ開催、新しい取り組み

への挑戦を支援する

Issue: 海外への発信が不足

Solution: 英語解説付き動画の制作、大使館を通じた海外プロモーション、日本文化の魅力を体現するコンテンツ作成

Issue: 伝統と新しさのバランスが難しい

Solution: 吟剣詩舞の真髓を明確化し、その上で新しい表現方法を模索する

<common Decisions>

武道館大会に向けた重要な決定事項は以下の通りです:

武道館大会を記念すべき節目として位置付ける

大使館や観光協会などと連携し、海外プロモーションを行う

吟剣詩舞の真髓や理念を明文化し、世界に発信する

後継者育成のためのワークショップやオンラインレッスンを検討する

新しいメディアを活用した発信を強化する

【提案まとめ】

●吟と剣詩舞の神髓を広めよう

- ・吟詠剣詩舞は武家の芸術である
- ・貴族のものでもなく、庶民のものでもなく、武家のものであるということ
- ・今、あらためて武家の芸術である**吟剣詩舞の神髓を見直す時期**
- ・「吟」「剣舞」「詩舞」この3つがなぜ一緒に扱われているのかを深く考えたい
- ・能であれば、白洲正子が「能はこうである」といったことで復興したと考えている
- ・今、ケンカをしている場合ではない
- ・新しいメディア、器を見出す必要がある
- ・その受け皿はネットフリックスかもしれないし、ドキュメンタリーや、振興会のチャンネルかもしれないし
- ・それぞれの宗家の吟をオムニバスにしてはどうか（各流派の神髓を紹介）
- ・それを電子本として出版するなど（英訳などでもして世界へ）
- ・振興会は利益を追求する必要がないため無料で出版ができれば
- ・「自分たちが何者なのか」という確認は5、10年後に一度必要

●今回エミー賞を受賞した「SHOGUN」の例

- ・衰退化している時代劇の現状と吟詠剣詩舞界は似ている部分があるが、「SHOGUN」はなぜヒットしたのか？
- ・真田広之氏が、撮影に入る前に、必ず一人一人の装備や立ち居振る舞いなど、すべてチェックしてご自身も演じられたことから、他の演者も気合が入った

- ・外連味と伝統の塩梅が良かった
- ・吟詠剣詩舞界でも、外連味と伝統の塩梅を誰が見極めるか
- ・見極めができれば「SHOGUN」のように多くの方に吟詠剣詩舞の魅力が伝わる可能性

●吟詠剣詩舞界の発展のために

- ・公益財団法人であることをフル利用し、公的な助成金をたくさん申請したり、広報活動などを徹底的に
- ・学校巡回講演 など

●新しいメディアへ

- ・YouTube などはコンクール向けの練習目的で視聴される方が多いようだ
- ・AI では瞬く間にたくさん作品ができ、TikTok でアップすれば視聴年齢層がぐっと下がるだろうが、責任問題などもあり、塩梅がむずかしい（各流派の考え、許諾問題）
- ・吟詠は、感情をこめて詠いあげるところが醍醐味
- ・その感情の最高潮の部分を SNS にあげてみては
- ・（漢詩はハードルが高いので）俳句ブームの波に乗り、俳句を入口としてみては
- ・漢詩や俳句など過去に作られたものだけではなく、今のものも吟じられることを見せる
- ・Ado の曲やアニメのテーマソングなどを吟じてみては
- ・見ただけではわからないので、シーンの解説を英語で出せば流行ると思う
- ・英語で吟じてみては
- ・海外で教えているとき「どうして英語にするの？日本語でいいのに」という方もいる
- ・習いたい方は日本語のままで、知らない方向けは英語がいいのかも
- ・経験上、着物など、アイキャッチなものは閲覧回数が伸びる！
- ・国内は、俳句や学校巡回など地道な活動をやり、飛び道具として海外向けアピールを

●若者向け

- ・マンガで出てきたものを上手く取り入れる（関連のあるシーン、土地、うた）
- ・若者は「カラオケ」「旅」に興味がある
- ・各観光地に由来の和歌やかるたに出てくるものなどを利用
- ・少壮吟士にカラオケを歌ってもらう（上手いことがわかりやすく伝わる）
- ・少壮吟士がボカロしか出せない声で歌えることを見せる
- ・スーパーチームもカラオケをうたっている動画はそんなに視聴回数があがらない
- ・上手いだけでは視聴回数が上がらないので、ストーリーが必要かも
- ・歌が上手くなる、声が大きくなる、コミュニケーションが上手くなる
 - 自己肯定感が高くなる
- ・習いたいと思っても、近所にない、忙しくて時間取れない → オンライン授業があれば

- ・おためし5回コース、など（気軽さ）
- ・先生から動画を送ってもらって、自分の実技（うたなど）も送ってコメントをもらう
- ・一般的に外から見ると、古くて堅苦しいもの、というイメージだろう
- ・もっとカッコいいものであることを、とわかってもらわなくては

●とにかく勝手なことができない

- ・何をするにも師匠の許可が必要
- ・若い人が集まって自主的に何かをやることは、できない世界
- ・若い人がやりたいことをするには**大義名分が必要**
- ・例えばスーパーチームが武道館でやるとして、振興会がプロデューサーをつけてくれて、「そのプロデューサーの演出指示」という大義名分があればやりやすい
- ・振興会が「新しいことを、次世代に向けて！」とやるのは具合が悪いのが、この世界の難しいところ
- ・新しいものをやろう！というのは、振興会がやるのではなく、オルタナティブの先駆者の役目であろう

●武道館大会

- ・ストーリーが必要（当日まで徐々に盛り上げる作戦）
- ・今まで、開催日までの企画がなかった（前日のリハから）
- ・本番までのメイキングなどの企画
- ・すべての大使館に招待状を送る
- ・できれば大使館の方々も、そのとき一緒に詠えるように事前に渡しておくとい
- ・もし大使においでいただいたら、観光もお連れする
- ・観光協会の方でも「振興会はつかえるかも」と思ってくれたら
- ・大使館の方が来る場合、詩吟でめぐる日本の美しい風景 100 など
- ・そのまま YouTube にしたら観光協会が使ってくれる可能性あり